

第2学年音楽科学習指導案

指導者 赤池 夏実

1. 題材名 「声部の役割や声量のバランスを考え、曲にふさわしい歌唱表現を工夫しよう」

2. 題材の目標

- (1) 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付ける。(知識及び技能)
- (2) 音色、テクスチュアを知覚し、それらの働きが生み出す特性や雰囲気を感じながら、知覚・感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫する。
(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 歌唱表現を工夫することで生まれる曲の様々な変化に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協動的に歌唱の学習活動に取り組むとともに、他者と合わせて歌うことを通して音楽に対する感性を豊かにする。
(学びに向かう力、人間性等)

3. 指導事項との関連

第2学年及び第3学年 「A 表現」 (1) 歌唱

ア 歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫すること

イ (ア) 曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わり

ウ (イ) 創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌うこと

〔共通事項〕 (1) ア (本題材の学習において、生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素：「音色」「テクスチュア」)

4. 題材設定の理由

本教材は、「夏の日への贈りもの」を教材とした【表現】歌唱の題材である。本題材を通して、曲想と歌詞の構造や歌詞の内容に関心をもち、「夏の日への贈りもの」の旋律の動きについて理解し、思いや意図をもって曲にふさわしい表現を工夫して試行錯誤しながら歌唱することをねらいとしている。

生徒は、日々たくさんの音楽の中で生活している。普段から音楽を聴いている生徒はとても多く、研究のアンケートでは“音楽の授業が好きである”と答えた生徒が多くいた。生徒は音楽の授業にも意欲的で、1年生の時に歌唱した「We' ll Find The Way～はるかな道へ」の二部合唱は、美しいハーモニーを表現するために深い声で歌ったり、楽譜に表記されている強弱記号をダイナミックに表現したりして伸びやかに歌い、歌唱表現活動を楽しみ姿が見られた。学年合唱では「青葉の歌」や「予感」などの合唱曲に取り組み、生徒一人ひとりが歌詞の内容を考えたり、伝えたい相手を意識して表現の工夫をしたりするなど、意欲的に表現活動に取り組んでいる。

本題材の学習を通して、「夏の日への贈りもの」の曲想や歌詞の内容、声部の役割や全体の響きに関心をもち、音色、テクスチュアとの関わりについて理解させたい。そして、旋律や声部の役割に応じた歌い方や全体の響きのバランスなどの技能を得たり生かしたりしながら、歌唱表現を工夫できる力を身に付けさせ、豊かな表現活動をしようとする気持ちを育みたい。

5. 教材について

(1) 歌唱教材

「夏の日贈りもの」 高木あきこ 作詞 / 加賀清孝 作曲

「ふるさと」 高野辰之 作詞 / 岡野貞一 作曲

(2) 教材選択の理由

「夏の日贈りもの」は変口長調で4分の4拍子、速度はAndanteでゆったりとしている。混声二部合唱で、無理のない音域で歌いやすく掛け合いによる響きが美しい曲である。歌詞に描かれた情景などを感じ取り、旋律や強弱の変化と関わらせて、曲にふさわしい表現を工夫することができると考えた。既習曲である「ふるさと」を再度歌唱することで、これまで積み重ねてきた“よりよい歌声をめざすこと”を思い出しながら歌唱させたい。更に曲にふさわしい表現をするために、管楽器による「夏の日贈りもの」をいくつかのパターンで比較聴取することで、新しい気付きができるように考えた。楽器を変えて音色を変化させることで、音の重なり方に注目させたい。

6. 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 知 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解している。 ② 技 創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付けて歌唱で表現している。	思 音色、テクスチャを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じしながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい音楽表現としてどのように表すかについて思いや意図をもっている。	態 歌唱表現を工夫することで生まれる曲の様々な変化に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現の歌唱の活動に取り組もうとしている。

7. 指導計画と評価計画（全4時間）

時	◎ねらい ○学習内容 ・学習活動	評価規準 【評価方法】			☆Aと判断する生徒の状況例 ■個別な働きかけを要する生徒への支援
		知技	思	態	
◎「夏の日の贈りもの」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わりについて理解し、どのように歌唱できるようになりたいか見通しをもつ。					
1	<ul style="list-style-type: none"> ○音の重なりに注目しながら、学年合唱「プレゼント」の録音を聴く。 ・学年合唱「プレゼント」の録音を聴き、自由に話し合う。 ・冒頭のソプラノの主旋律にアルトとテノールのオブリガートが追いかけるようになっている部分に注目し、再度録音を聴く。 ・音の重なりについて気付いたことをワークシートに記入し、学級全体で発表する。 ○「夏の日の贈りもの」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わりについて理解する。 ・歌詞から想像した情景や作詞者の心情を自由に話し合う。 ・「夏の日の贈りもの」の模範唱を聴き、感じ取った曲想など音楽の特徴で気付いたことを個人でワークシートに記入し、学級全体で発表する。 ・主旋律・オブリガートの部分を確認しながら「夏の日の贈りもの」の男声パート・女声パートを繰り返し歌い、それぞれの旋律を覚える。 ○「夏の日の贈りもの」を全員で歌唱し、どのように歌唱したらよいか見通しをもつ。 ・「夏の日の贈りもの」を歌唱する。全員がどちらのパートも歌う。 ・全体で歌唱したものを録音し、録音を聴きながらどのように歌唱したら曲にふさわしい表現をすることができるか個人で考え、ワークシートに記入する。 ○本時を振り返り、今後の見通しをもつ。 ・自己評価カードに本時の振り返りを記入する。 ・次時はペアで歌唱し、よりよい歌唱表現ができるように練習していくことを理解する。 				

◎創意工夫に必要な発声や表現の仕方などを理解し、二部合唱の響きをどのように表現するかについて考える。

<p>2</p>	<p>○前時に録音した歌唱を聴き、ワークシートに記述した個人の考えを学級全体で共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・録音したものを聴き、どのように歌唱したら曲にふさわしい表現をすることができるかという個人の考えをワークシートに記述したものをいくつか確認する。 <p>○よりよい歌声を目指して歌唱したことを思い出し、よりよい歌唱表現はよい歌声で歌うことだけでは成り立たないことを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の記述の中から、よい歌声で歌うというキーワードを取り出し学級全体に共有する。 ・一年次によりよい声をめざして何度も繰り返し歌唱したことを思い出す。よりよい歌声で歌うためのヒントとなるカードを振り返る。【学習方略】 ・三宅由佳莉による「ふるさと」を鑑賞し、よりよい歌唱表現はよい歌声で歌うだけでは成り立たないことを理解する。 <p>○ペアをつくり、「夏の日の贈りもの」の一番を一斉に歌唱し、生徒のタブレット端末にペアの歌唱を録音する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・女声パート・男声パートに分かれ、違うパートの生徒同士でペアをつくる。 ・「夏の日の贈りもの」の一番を一斉に歌唱し、生徒のタブレット端末にペアの歌声を録音する。 ・録音したものをヘッドホンで聴き、聴き取ったことや感じ取ったことを共有し、ワークシートに記入する。 <p>○本時を振り返り、次回の授業の見通しを持つ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己評価カードに本時の振り返りを記入する。 ・よりよい歌唱表現をすることができるよう、次回の授業ではよりよい表現の工夫を考え、歌唱することを確認する。 				
----------	--	--	--	--	--

◎管楽器による演奏を比較聴取し、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて思いや意図をもつ。

3
(本時)

- ペアで歌唱した「夏の日の贈りもの」を再度聴き、前時の学習を振り返る。
 - ・ペアで録音した歌唱を聴き、前時にワークシートに記入したことを振り返る。
- 管楽器で演奏した「夏の日の贈りもの」を比較鑑賞し、曲にふさわしい歌唱表現について考える。
 - ・まずは二種類の演奏を全体で一斉に鑑賞し、二つのパートのバランスについて気付いたことを個人でワークシートに記入し、学級全体で共有する。
 - ・歌唱するペアを組み合わせたグループで他のパターンの演奏をいくつか鑑賞する。タブレット端末にヘッドホンを繋げ、同じ音源を同時に確認する。曲にふさわしいバランスのよい演奏について、考えを深める。ペアで話したことを学級全体で共有し、全体での理解につなげる。
- 「夏の日の贈りもの」の模範唱を聴き、ペアの目標を決める。
 - ・これまで歌唱した音源や目指したい歌唱表現の音源を聴き比べ、振り返る。
 - ・どのように歌唱したいかという目標をペアで考え、ワークシートに記入する。
- 「夏の日の贈りもの」の一番を一斉に歌唱し、生徒のタブレット端末にペアの歌唱を録音する。
 - ・「夏の日の贈りもの」の一番を一斉に歌唱し、生徒のタブレット端末にペアの歌声を録音する。
 - ・録音したものを聴き、聴き取ったことや感じ取ったことを共有し、ワークシートに記入する。
- 目標を達成するためにどのように歌唱したらよいかペアで考える。
 - ・目標を達成するためにどのように歌唱したら曲にふさわしい歌唱表現ができるか個人で考え、楽譜に書き込み、ペアで共有する。
- 本時を振り返り、次回の授業の見通しを持つ。
 - ・自己評価カードに本時の振り返りを記入する。
 - ・次回の授業ではペアで歌唱練習を行っていくということを確認する。

【知
ワークシート】

知 ☆知覚した音楽を形づくっている要素やそれらの働きが生み出す特性や雰囲気を感じたことを具体的に記述している。


■テクスチュアについて聴き取れない生徒には、楽器の組み合わせによる響きの違いについてたずね、教師と一緒に言葉にしていく。

思 ☆曲にふさわしい表現について具体的なイメージをもち、どのように歌うかについて、強弱や旋律以外の要素についてもよりどころとしながら、自分の言葉で表現している。

■どのように表現したいかという思いや意図がもてない生徒に対しては、音楽の変化をつけずに教師が歌い一緒に考えたり、友達の意見を参考にさせたりする。

【思
ワークシート】

◎曲にふさわしい表現で歌うために必要な技能を生かして歌唱表現を工夫し、他者と合わせて歌うことを通して音楽に対する感性を豊かにする

<p>4</p>	<p>○一斉に「夏の日の贈りもの」を歌唱し、前時の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一斉に「夏の日の贈りもの」を歌う。 ・ヘッドホンを使って前時の録音を聴き、振り返る。 <p>○ペアで考えた曲にふさわしい表現の工夫を実践できるよう、歌唱と録音を繰り返し、練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1時間目の録音や模範唱を聴き返しながら、ペアで決めた目標を再度確認する。 ・様々な表現を試したり録音して確認したりすることを繰り返し、試行錯誤する。 ・試行錯誤しながら楽譜にできたことを書き込む。 ・ペアで歌唱するだけでなく、同じパート同士練習したり違うペアの生徒に聞いてもらったりするなど、各自に合った練習の仕方を工夫する。 ・手ごたえが掴めたら、録音部屋〈音楽科研究室、国語科研究室、会議室〉で録音し、第一音楽室に戻り聴く。待っている時間も練習してよい。 ・活動途中でいくつかのペアの表現を学級全体で共有し、一斉に歌唱する。 ・最終的に録音した音源を、ロイロノートで教師に提出する。 <p>○本時を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最後にペアで練習したことを意識しながら、学級全体で歌唱する。 ・第1時に学級全体で録音した表現と本時の最後に全員で歌唱した録音を聴き比べ、目標を達成できたかどうかや今後の歌唱活動に生かしたいことを自己評価カードに記入する。 	<p>【技】 【観察・録音音源】</p>	 <p>【態】 【観察】 【自己評価カード】</p>	<p>【技】☆繰り返し歌ったり聴いたりする活動を通して、よりよい表現で歌うために目標を意識し、既習の知識や技能を生かしながら歌唱表現を創意工夫している。</p> <p>■歌う部分を一部分に絞り、その部分を目指に向かい歌うことができるようにこだわり、教師と一緒に歌う。</p> <p>【態】☆声の音色やテクスチャを工夫して歌うことにより表現の変化の面白さや豊かさなどに関心を持ち、自分の考えを積極的に伝えたりしながらかしょうの活動に意欲的に取り組んでいる。</p> <p>■主体的に学習に取り組むことができない生徒には、対話をしたり実際の演奏を確かめたりして、うまくできていることに関しては積極的に認め、無理なく取り組ませる。</p>
----------	---	--------------------------	--	--

8. 本時の展開（3時間目）

(1) 日 時 令和6年11月30日（土）9：45～10：35

(2) 場 所 山梨大学教育学部附属中学校 第1音楽室

(3) 本時の目標 「管楽器による演奏を比較聴取し、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて思いや意図をもつ。」

(4) 展 開

過程	学習のねらいと学習活動	教師の指導・支援	評価・備考
導入 (5分)	<p>1. ペアで歌唱した「夏の日」の贈りものを再度聴き、前時の学習を振り返る。</p> <p>・ペアで録音した歌唱を聴き、前時にワークシートに記入したことを振り返る。</p>	<p>・前時に使用したワークシートを確認させる。</p>	<p>学習形態 ペア、個人 態【観察】</p>
展開 (40分)	<p>本時のねらい：「声部のバランスを意識して、曲にふさわしい歌唱表現を追求しよう」</p>		
	<p>2. 管楽器で演奏した「夏の日」の贈りものを比較鑑賞し、曲にふさわしい歌唱表現について考える。</p> <p>・まずは二種類の演奏を全体で一斉に鑑賞し、二つのパートのバランスについて気付いたことを個人でワークシートに記入し、学級全体で共有する。</p> <p>・歌唱するペアを組み合わせたグループで他のパターンの演奏をいくつか鑑賞する。タブレット端末にヘッドホンを繋げ、同じ音源を同時に確認する。曲にふさわしいバランスのよい演奏について、考えを深める。</p> <p>・ペアで話したことを学級全体で共有し、全体での理解につなげる。</p> <p>3. 「夏の日」の模範唱を聴き、ペアの目標を決める。</p> <p>・これまで歌唱した音源や目指したい歌唱表現の音源を聴き比べ、振り返る。</p>	<p>・同じ楽器で演奏したものを聴かせる。同じ楽器で演奏することで、音色（音質）が同じことからバランスのよさを確認する。その後、違う種類の楽器で演奏したものを聴かせ、同じイメージを持って音色を工夫することでよりよい演奏になることを確認する。</p> <p>・いい例と悪い例をどちらも提示して学級内で価値感を統一し、何でもよいという結論にならないように配慮する。</p>	<p>学習形態 一斉、ペア 知【ワークシート】</p>

	<p>・どのように歌唱したいかという目標をペアで考え、ワークシートに記入する。</p> <p>4.「夏の日贈りもの」の一番を一斉に歌唱し、生徒のタブレット端末にペアの歌唱を録音する。</p> <p>・「夏の日贈りもの」の一番を一斉に歌唱し、生徒のタブレット端末にペアの歌声を録音する。</p> <p>・録音したものをヘッドホンで聴き、聴き取ったことや感じ取ったことを共有し、ワークシートに記入する。</p>	<p>・ペア同士の歌声や歌い方のバランスがどうなっているかに注目して聴かせる。</p>	
<p>まとめ (5分)</p>	<p>5. 本時を振り返り、次回の授業の見通しを持つ。</p> <p>・自己評価カードに本時の振り返りを記入する。</p> <p>・次回の授業ではペアで歌唱練習を行っていくということを確認する。</p>	<p>・管楽器で比較聴取したことがペアでの歌唱や目標に結びついているかどうか、考えさせる。</p>	<p>学習形態 個人 主【自己評価カード】</p>

〈引用・参考文献 等〉

- ・ 中学校学習指導要領 文部科学省 H29
- ・ 中学校学習指導要領解説 音楽編 文部科学省 H29.6
- ・ 評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料（中学校 音楽）
H23 国立教育政策研究所 教育課程研究センター
- ・ 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 音楽編 文部科学省
R2.3 国立教育政策研究所 教育課程研究センター
- ・ 山梨大学教育人間科学部附属中学校研究紀要 H23~27
- ・ 山梨大学教育学部附属中学校研究紀要 H28~R5
- ・ 中央教育審議会 「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」 H28.12 文部科学省
- ・ 中学校新学習指導要領の展開 音楽編 H29 副島和久編著 明治図書